

学 科	鍼灸マッサージ科	学 年	1年生	期 別	通年	科目の実務経歴	有
授業科目名	東洋医学概論 I			担当教員	山梨 あかり		
授業の方法	講 義			単位数	2単位	時間数	60時間
学修内容	東洋の自然哲学、東洋医学における人体の構造と機能の考え方、病理観などの基本的知識を学ぶ。						
授業の到達目標	2) 医学的知識 4. 東洋医学の自然哲学・健康観・病理観について理解する。 ※病理観については病の原因についてのみ学習する。						
授業計画	前 期			後 期			
	回	テーマ		回	テーマ		
	1	第1章 東洋医学の特徴 第1節 東洋医学の沿革 I. 東洋医学の歴史		1	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)		
	2	第1章 東洋医学の特徴 第2節 人体の見方 I. 人と自然の統一性 II. 有機的な統一体としての人体		2	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)		
	3	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 I. 五行学説の基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用		3	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)		
	4	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 I. 五行学説の基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用		4	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)		
	5	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 I. 蔵象学説		5	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)		
	6	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域		6	第2章 生理と病理 第1節 生理物質と神 I. 生理物質(精・気・血・津液)		
	7	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域		7	第3章 東洋医学の思想 第1節 五行学説 I. 五行学説の基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用		
	8	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域		8	第3章 東洋医学の思想 第2節 五行学説 I. 五行学説の基本内容 II. 東洋医学における五行学説の運用		
	9	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 III. 五臓の相互関係		9	第3章 東洋医学の思想 第1節 陰陽学説 I. 陰陽学説の基本内容 II. 東洋医学における陰陽学説の運用		
	10	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 III. 五臓の相互関係		10	第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因		
	11	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 III. 五臓の相互関係		11	第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因		
	12	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 III. 五臓の相互関係		12	第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因		
	13	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 III. 五臓の相互関係		13	第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 I. 病因		
	14	第2章 生理と病理 第1節 蔵象 II. 五臓とその機能に関する領域 III. 五臓の相互関係		14	第3章 東洋医学の思想 第4節 病因病機 II. 病機		
15	第2章 生理と病理 第2節 蔵象 IV. 六腑の協調関係		15	第3章 東洋医学の思想 第5節 病因病機 II. 病機			
評価基準	評価: 90-100点(A評価)、80-89点(B評価)、70-79点(C評価)、60-69点(D評価)、59点以下(F・不可)						
評価方法	各種小テスト、定期試験により総合的に評価いたします。			実務経歴	臨床歴:6年 教歴:4年		
履修上の注意	わからない漢字は飛ばさず、必ず、調べる・聞くなどをしてメモを取るようになしてください。また、必要に応じてプリントを配布します。(A4サイズ)時系列に沿ってファイリングしてください。			授業時間外の学習	小テストの内容は授業のまとめとなっておりますので、反復して忘れないようにしましょう。		
使用教材	教科書 ・東洋療法学校協会「新版 東洋医学概論 第1版」 参考図書 ・東洋学術出版「針灸学 基礎編」 ・経絡治療学会編纂 日本鍼灸医学(経絡治療・基礎編)			連絡先	質問や相談があるときは事務課を通して、訪ねてください。		